

しおさい



尻労地区の浜辺に咲くハマボウフウ

CONTENTS

- 特集記事 シリーズ② ふるさと見聞録: ^{しもたや}下田屋を訪ねて……………2
- 明日へのかけはし: 東通村食生活改善推進委員会……………4
- クローズアップ こんにちは元気さん: ^{えびな}蛸名 ^{やまと}大和さん……………4
- 地元の特派員レポート: ^{なべや}鍋谷 ^{りお}莉央さん / ^{そうま}相馬 ^{つかさ}司さん……………5
- 発電所インフォメーション……………6

vol.22

令和2年度発行

東北電力(株)東通原子力発電所

師匠どころとして神楽を伝承

しもたや

下田屋を訪ねて

気候が穏やかで人々の心がやさしい地域!

東通村の西部、国道338号線をむつ市に向かい、途中、目名方面への分かれ道から青平川岸に開けた国道沿いの集落が、下田屋地区です。

江戸時代は田屋(現上田屋地区)の枝村で、青平川沿いに集落がありましたが、寛政5年(江戸時代前期)、現在地に移ったと伝えられています。

内陸部に位置し、村内では穏やかな気候であることから、かつては水田や稗田が耕されていました。現在も5軒の専業農家が米作りを営んでいます。

昭和30年代には山樵(木こり)や炭焼きで生計をたてる人も多く、山から丸太を運ぶために、1軒で3頭の馬を飼っていたそうです。当時は馬力大会も盛んに行われ、下田屋は何度も優勝する強豪だったそうです。賞品の筆笥などは、荷車で運んだといわれています。また、肉牛として黒毛や赤毛の和牛が肥育され、品評会も行われていました。

地区の守り神は、下田屋八幡宮。大正時代火災に遭いましたが、大正11年、現在地に立派な社殿を新造しました。毎年9月15日には、例大祭が行われています。



下田屋八幡宮

八幡宮の敷地には蒼前様、そのすぐ近くには稲荷様、かつて山伏が住んでいたことから龍神様も祀られています。

下田屋に代々伝承されてきたのが「神楽」。江戸時代、三重から訪れた人に習ったそうで、京都の流れをくむ拍子は独特。青年会を中心に、下田屋が師匠となり、平獅子や踊り獅子などを、むつ市の栗山や品の木、田野沢(旧川内町)へ伝えたそうです。昭和30年代頃までは歌舞伎や、婦人会による田植餅つき踊りも行われていました。

戦後、暮らしにゆとりのあった下田屋地区には「里親」となった家がたくさんありました。生活に苦む農家の子どもを育て、共に農業を営み、大人になったら分家として独立させました。

今から40年程前まではお盆の8月14日に、分家した人たちや親族が一堂に集まって、墓前で宴会を行う風習もありました。

現在は、すべての行事が地区会を中心に行われています。



下田屋の自家筋の墓／お盆には親族が集まり酒盛りをして供養した



小高い山の上に祀られている稲荷様



昭和27年当時の下田屋青年会



下田屋青年会祈祷舞「平獅子」



下田屋地区

山伏が住み、 殿様が泊まった下田屋地区

東通村史によると、下田屋には昔、山伏が住み、無縫塔の形をした山伏の墓と伝えられるものがあつたとされています。それを裏付けるように、下田屋で代々暮らす川上家は、今も「山伏」の屋号で呼ばれています。川上家の敷地には水を司るといわれる龍神様が祀られています。

また、下田屋には「大家」という屋号の橋本家があります。その昔、殿様の宿として使われたそうで、床の間の大きな掛軸の裏から出入りできる隠し部屋が存在していました。

山伏が住み、殿様の宿があつた下田屋地区の奥深さを垣間見れるエピソードです。



屋号が「山伏」の川上家



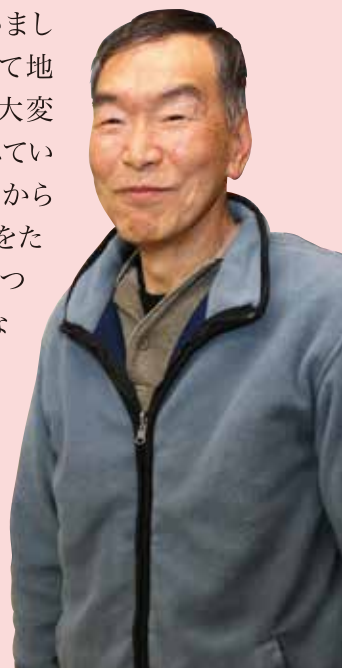
山伏の墓とされる石塔



屋号が「大家」の橋本家

かわかみ りょういち
下田屋地区 会長 川上 良一さん(70歳)

下田屋地区は、世帯数18戸、人口30人が地区会に入会しています。昔は、神楽も青年会も、婦人会も活発に活動していましたが、今は人口が減って地区を維持していくのは大変です。かつて農業で食べていた裕福な集落だったからこそ、土地を手放すことをためらい、時代の流れについていくことができなかったのかも知れません。それでも家族の繋がりを大切にするこの地域。自分たちが元気なうちは、歴史ある地区を守っていきたいと考えています。



父親は山樵をしていましたが、私は水田4町歩に蕎麦と野菜を作る専業農家です。子どもの頃は馬や牛と共に暮らし、とても賑やかでした。殿様が泊まった家であることから、今でも我が家は「大家」と呼ばれています。農家の後継ぎがないのは寂しいですが、歴史のあるこの家とこの地区は残していきたいと思っています。



下田屋地区 副会長
はしもと ゆういち
橋本 裕一さん(71歳)

下田屋八幡宮では、毎年9月15日例大祭を行い、田名部神社の宮司を呼んで祈禱してもらっています。伝統の神楽を楽しくやりたいけれど、今は人数が足りないためできないことがすごく残念です。けれど、年に一度の祭りであるこのときは、婦人たちも集まって昔話に花を咲かせます。これからも氏子総代として大事にしていきたい行事です。



氏子総代
みやもと ひさお
宮本 久男さん(66歳)



東通村の頑張るグループを紹介

食を通じて健康づくりを推進!

【東通村食生活改善推進委員会】

「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、減塩、だし活、野菜不足の改善など、食を通じた健康づくりを積極的に推進しているボランティアグループが、東通村食生活改善推進委員会です。

設立は平成7年、東通村が行う住民健診のあとの朝食提供から活動がスタートしました。現在会員は26人。

主な活動は、乳幼児健診で「だし活みそ汁」を若いお母さんに飲んでもらい、減塩の大切さをアピール。料理講習会では、減塩みそ、地元の天草を

使ったところてん、豆しとぎ、こんにゃくなどの作り方を村民に教えています。

東通中学校の「食育教室」では、郷土料理「けんちん汁」の作り方を指導。生徒たちは「具たくさんなのに簡単」とよろこんでくれました。

また、東通村こども園の祖父母参観日や村の健康まつりでは、スイーツ作りも行っています。

会長の南川千恵美さんは「楽しみながら勉強できるのが会の魅力。地域や年代を超えての交流、情報交換



会長の南川千恵美さん(左)と副会長の二本柳ヨイ子さん(右)

も、ためになりますよ。高齢化による会員の減少が課題です。村の養成講座を受講すれば誰でも食生活改善推進員になることができますので、みなさんも参加してみませんか! また私たちは、オファーがあれば、村内どこにでも出向いて講習会を開きますので、ぜひ気軽に声をかけてください」と話していました。



東通村食生活改善推進委員会のみなさん



「食育教室」では、中学生にけんちん汁の作り方を指導



「こんにゃく」作り講習会



「減塩みそ」作り講習会

村内で元気に活動する人を紹介!

**こんにちは
元気さん**

元気さん

プロゴルファー
えびな やまと

蛸名 大和さん(24歳)

プロゴルファーの中でゴルフトーナメントに参戦できるツアープロ。2019年日本プロゴルフ協会が認定するファイナルラウンドを2位で合格。今年度から本格的にプロとして活動を開始した、東通村老部出身の蛸名大和さんにインタビューしました。

「子どもの頃から夢だったツアープロ。早く結果を出せるよう練習を重ね、ツアー優勝目指して頑張りたい!」素直な気持ちを笑顔で話す蛸名プロ。ゴルフを始めたのは、何と3歳。東北アマ出場歴のある父・浩一郎さん指導のもと、老部の砂浜でクラブを握り、遊んだのが最初でした。

老部小では野球部入部と同時にむつ市でレッスンプロから指導を受け、東

通中では陸上部で活動しながら「東北中学選手権」「東北ジュニア」で優勝。埼玉栄高校では「関東ジュニア」2位、団体では全国制覇を果たしました。東北福祉大では比嘉一貴プロと同期で、彼のキャディとして、大学の先輩にあたる松山英樹プロと一緒にラウンドを回ったとき「同じゴルフなのに世界が違くと刺激を受けました」と振り返ります。

最も辛かったのは大学時代に突然思うようにプレーができなくなるイップスを経験したこと。「あの時はプロのアドバイスをすべて試し、自分にプレッシャーをかけずにプレーする術を見つけ克服できました」と明かします。

そして昨年のプロテスト2位。QT(新人プロらがツアー出場権を争う大会)でもファイナルへ進出。現在は、カレドニアン・ゴルフクラブに所属し、1日6時間練習を積んでいます。地元下北では「蛸名大和プロ後援会」が結成され、全面的にバックアップ。蛸名プロと回るコンペも企画中です。

「地元のみなさんには本当に感謝しています。東通は故



郷だけあって帰ると落ち着くんです。夢は諦めなければ叶うと思う。目指す過程で苦しいこともあるけれど、乗り越えれば強くなれる。諦めずに頑張っ!と子どもたちにエールを送っていました。





東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

レポートは4月に作成し
写真は特派員が
自ら撮影したものです。



私のふるさと

東通村大利在住 なべや りお
東通小学校(6年) 鍋谷 莉央さん(12歳)

私の住む大利地区には、好きな所がたくさんあります。私の家のブルーベリー畑は今はまだ実はなっていませんが、夏になるとおいしいブルーベリーがたくさんとれます。毎年お客さんが来て、「おいしいね」と言ってくれるのが嬉しいです。



4月のブルーベリーの木



昨年夏のブルーベリー畑

毎年5月の後半に田植えをします。私も手伝うのですが、みんなでやるととても楽しいです。「ほっかりん」という品種で、冷め



ほっかりんを植える田んぼ

てもおいしいお米です。

家から自転車で3分くらいの所に伝承館があります。そこでは、毎年春と秋に「そば街道まつり」が行われ、毎回、大勢のお客さんが来てくれます。「このそばが一番おいしい」と言って何回も来てくれるお客さんもいてとても嬉しいです。

また、大利には牛舎が多くあります。中にはたくさんの牛がいて、前を通ると時々



牛舎で飼っている牛は黒毛和種



大利地区ふるさと伝承館



石臼挽きのそば粉

大きな鳴き声がしてびっくりすることがあります。草をあげると、口をモシャモシャ動かしてかわいいです。

なかなか大利に来る機会がない方も、一度来てみて下さいね。



天空の地・岩屋

東通村岩屋在住 そうま つかさ
相馬 司さん(64歳)

ハ〜イ 岩屋ですよ〜

津軽海峡に面した海岸段丘崖下に延びる集落が岩屋です。歴史的に面白い伝えが残る集落で、洞窟にお城が存在したとか、北通り地区に流れる赤川の名の由来となった昔ばなしでは岩屋に鬼が現れます。また、若宮八幡宮には鳥居をくぐった先に寺門があり、これも不思議です。過去には災害などで居住地を移転したこともあるなど、結構古くから存在した集落ではないかと思っています。

生活の基盤は主に漁業と会社勤めです。郷土芸能は能舞で、青年会が伝承し、年に2回(1月3日・12月18日)集会所で舞いを披露します。また、子ども会による芸能発表会を2月に開くなど、子どもた



若宮八幡宮の鳥居



若宮八幡宮

ちの育成にも力を入れています。

桑畑山からは太平洋、むつ湾、津軽海峡が眺望でき、その景色は心身を癒してくれます。また、高台を走るバイパスから望む夕陽は、日によって色や広がりに変化があるので、絶景ポイントを見つけてみるのも楽しいでしょう。また、近年は、多くの風車が立ち並び、揃って回転するその風景は、まるで空に舞い上がっているかのような錯覚を起こさせます。



昔の居住地跡



尻労道から見た風車群



西の浜辺から見た岩屋地区



バイパスから見える夕陽

発電所インフォメーション

「東通天然ヒラメ刺身重」を堪能しました

青森県内で5番目の新・OMOTENASHIご当地グルメとして誕生した「東通天然ヒラメ刺身重」が、デビューから2年たった昨年7月、メニューをリニューアルし、提供されています。

発電所では、提供する村内の3店舗にて食事を催し、一段と美味しさを増した東通自慢の味に所員が舌鼓を打ちました。

所員からは「見た目も華やかで、いろいろな調理方法でヒラメをいただくことができ、満足しました」などといった感想がありました。

皆さまもぜひ召し上がってみてはいかがでしょうか。



ログレストラン南川



松 楽



レストランむら

東通天然ヒラメ刺身重



「東通天然ヒラメ刺身重」は、新・OMOTENASHIご当地グルメとして、2017年7月にデビューした地産地消おもてなしコース料理です。東通村が誇る地場産食材オールスターズ(野球の打順で言えば…1番十割そば・2番マツモ・3番ブルーベリー・4番天然ヒラメ・5番東通牛・6番タコ・7番ほうれん草・8番長いも・9番お米「ほっかりん」・代打布海苔等)を味わい尽くすことができます。

★「東通天然ヒラメ刺身重」公式HP★

<http://www.higashidoorihirame.com/>

環境・エネルギー関連副教材を寄贈しました

発電所では、東通村の子どもたちに、電気やエネルギー・地球環境などへの理解を深めてもらうため、東通小・中学校へ図書やDVD、実験器具等の副教材を寄贈しております。

2019年度も11月と3月の2回、寄贈いたしました。



3月寄贈図書の一部



東通村役場庁舎での寄贈式(3/30)

発行



より、そう、ちから。

東北電力 東通原子力発電所

〒039-4293

青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4

TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

編集後記

広報誌「しおさい」第22号はいかがでしたでしょうか。

この第22号は、本年5月に予定していた全戸訪問活動において配布する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により発行を見合わせておりました。遅くなりましたが、こうして皆さまのお手元にお届けすることができ、大変うれしく思います。

「こんにちは元気さん」でご紹介しましたプロゴルファー蛸名大和さんには、小学5年生と中学3年生のときに、地元の特派員として本紙にレポートを寄せていただいたご縁があります。中学3年生の蛸名さんは、「高校にいてもゴルフを頑張り活躍したい」と決意を語っていました。夢を叶えた蛸名さんの姿は、子どもたちの良いお手本となるのではないのでしょうか。

本誌では、これからも夢を追いかけて頑張る子どもたちの姿を紹介していきます。